

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472200266
法人名	グループホームキノシタ有限公司
事業所名	グループホーム すいせん
所在地 (電話番号)	三重郡川越町高松203-2 (電話) 059363-6515
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 16 日(金)

## 【情報提供票より】 (H19年10月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人, 常勤換算 13人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	1,800~6,800 円
敷 金	(有) 50,000 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

## (4) 利用者の概要( 10 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80.8 歳	最低 65 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川内科医院(内科・往診可) 永田歯科(歯科・訪問診療可)
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

会社の組織化が整っており本社を中心に事業所間の連携が図られ社員が一丸となり利用者本位に考えた毎日の業務遂行である。小学校がすぐ傍にあり事業所前の道も通学路になっており行き帰りには挨拶を交わすなどの交流がある。事業所内は天井が高く廊下も広々と造られておりユニット内の様子が見渡せる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価課題点となった部分は特に意識して『改善しよう』という取り組み意思がもたれていた。すぐには困難なものもあるが意識は忘れずに日々取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	管理者が自己評価を記入する前に職員へも伝えて取り組んだ。昨年の物を参考にし常に気持ちを再認識させている。前向きな視点での取り組みが感じられた。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の情報も密にわかり地域住民への理解・つながりが濃くなりプラス面が多い。挨拶なども交わす機会・人数、年齢幅も広がっている。協力を求める際も依頼しやすくなった。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に1回定期的にホーム便りを送付している。面会時にも日々の生活状況を報告しながら家族の意見を聴きだしている。その中から終末期介護についての話し合いが提案された。今後の取り組み課題として検討を始めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 住民票を移転している方については老人会の加入もあり事業所としても自治会への加入と地域との関わりが多く 近隣住民との挨拶をはじめ近所の保育園や通学時の小学生との交流も積極的に行なわれている。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時より 各ユニットの玄関と共通の詰所に掲げている。	○	地域の中で事業所運営を進めていく点からも運営推進委員会をはじめ地域との関わりが増えた現在、事業所として地域に根ざしたサービスへの取り組みを事業所の理念として新たに検討し掲げられる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者から毎日の申し送り時に会社としての指示を含め理念の確認が行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住民票を移転している方については老人会の加入もあり事業所としても自治会への加入と地域との関わりが多く 近隣住民との挨拶をはじめ近所の保育園や通学時の小学生との交流も積極的に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を記入する前に職員にも伝えて取り組んだ。昨年之物を参考にし常に気持ちを再認識させている。	○	昨年からの改善部分が前向きな姿勢であり、今後も職員・運営者・管理者共に日々の取り組みの中で共有し、活用していられる事をさらに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年8月から2・3ヶ月に一度のペースで定期的開催している。地域の情報も密にわかり地域住民への理解・つながりが濃くなりプラス面が多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中に行政サービスを利用されている方が多く関わりは多く密に連絡が取れている。包括支援センターや社会福祉協議会との関わりも常時ある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回定期的にホーム便りを送付している。預かり金の残金や出納関係の報告も行なっている。健康状態の変化がある場合はその都度看護師からも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催が年に1回定期的に行なわれている。その中から終末期介護についての話し合いが提案された。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の妊娠が続いたが利用者に対して顔なじみの職員がユニットを移動するなど利用者に対しての配慮も考えた勤務体制を組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加したり知識を深める体制は会社として整っている。介護福祉士資格の受験に挑戦している職員への応援を会社としても行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所の他事業所との協力体制が整っており、町内にある他サービスの事業所を含めた会議や交流会への参加など積極的に行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に数回面談をしている。可能な場合は事業所内の見学もしてもらい入居へと進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関わりを多くもてるように日々の清掃業務等を工夫している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現できない利用者も居るが、日々の様子から汲み取りできるだけ添えるように努力している。表現できる方へは希望に応じた支援を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りの中での個々の変化を情報としケアマネが計画を立てている。家人の要望を聞き、組み込まれたプラン作成もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常的な申し送りの中では支援方法など常に変更している点があるもケアプランの見直しは6ヶ月に1度である。	○	申し送りの話し合いを活かし目標設定、見直しの必要性など検討して欲しい。計画があり支援の実際が続く部分を再度確認しプランの見直しも密に行なえるような体制を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行政書類など事業所で対応している。通院等へも家人の代わりに付き添うなど幅広いサービス体制が取られている。医療連携体制加算の体制も整えており柔軟な支援がされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回定期的に協力医が往診対応している。それ以外にも必要時に電話相談や受診にて指導してもらえる関係が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所内での話し合いや指針の作成を進めはじめたばかりで体制は途中である。	○	今後必要時に対応ができるように考えている途中であり今後職員の勉強会等考えているとのことで体制の組み立て・取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者として対応時の言葉・言い方等常に職員に対して注意して欲しいと指導している点であり職員も個々に気をつけている。書類に関しても職員から誓約書を取っており事業所として個人情報の取り組みも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重した日々の生活スタイルであるが、居室から少なくとも食事・おやつなど日に数回は他者との関わりが持てるよう配慮している。個々の希望に応じ散歩や買い物にも出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる方は限られるも、可能な方には手伝いを御願いし楽しみごとの一つとして感じてもらうような支援を取り入れている。個々の性格にあわせ席等の配慮もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じ準備している。2日に1回の方が多いが嫌いな方も多く定期的に入浴できるような支援をしている。失禁等があった場合は即清潔に配慮し入浴を勧めもしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課で掃除機をかける男性が居たり、歌の好きな女性が居たりそれぞれの利用者の好みを活かした支援や外気に触れる支援を行なっている。食べたいときに食べたいものを可能な限り応じれるよう日々関わりを持ちながら対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ少人数でも出かけているが、買い物等大人数でも出かけている。その日により手段は組み立てている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強くなる方がおり玄関口の事務所内が不在になる際等安全配慮として鍵をかけている。	○	事業所としてもいろいろと考えてはいるがなかなか妥当な案が無く検討中であり再度職員、推進委員会等視点を変えた意見を取り入れ検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下年に1回は防災訓練を行なっている。地区の防災会議へも参加している。防災管理者の届出も自主的に行なうなど積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿の方やキザミ食を摂取されている方もあり医師と相談しながら支援している。	○	知人の管理栄養士の方との相談体制も検討中とのことなので今後実現させていただけるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やデールームは天井も高く、広々し落ち着く空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好みに合わせ居室内の工夫がされている。ベッドが苦手な利用者には畳に布団が引かれている。		